

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0171401300), 法人名 (有限会社ハマダコーポレーション), 事業所名 (グループホームおもひで), 所在地 (北海道函館市東山3丁目2番4号), 自己評価作成日 (令和3年11月5日), 評価結果市町村受理日 (令和4年3月22日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

民家改修型のホームで、昔ながらの家庭的な雰囲気があり、庭には燈籠や庭石があり、四季により様々な景色を楽しむことが出来る。コロナ禍にて、以前のような外出の機会は減ったが、四季のドライブやホーム内にてお祭りや花火など少しでも楽しんで頂けるよう努めている。また、町内会にも所属しており地域の行事は中止になり参加出来なかったが、地域の方には理解と協力が得られ、日頃から大変良くして頂いている。職員は、介護計画の実施状況を毎日の業務日誌、個人記録に記入し、目標達成に取り組んでおり、入居者様に安心して毎日を過ごして頂けるよう、係わりを大事に一緒に過ごさせて頂いている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0171401300-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西1丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和3年12月21日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・事業所は平成16年開設の1ユニットで、商業施設が立ち並ぶ産業道路に程近い、交通、買い物に至便でありながら、自然豊かで静かな住宅地に立地している。運営法人は、グループホームを多数展開しており、そこで得た経験から、職員が意欲をもって働ける環境作りに取り組み、職員の年齢層に厚みを持たせ、日常の多様なニーズにも対応している。コロナ感染防止対策として、地域や家族との交流行事も自粛しているが、閉じこもる事なく、利用者の身体状況、気分を把握して、生活場面に参加してもらえよう努めている。また、今年度は家族とのコミュニケーションの充実を事業所の目標としており、お便りの充実や意見、希望の聴取、ガラス越しやリモートでの面会等、多様な場の設定を進め、積極的に取り組んでいる。また、利用者・家族の満足度を計る為、毎年、自社アンケートを実施し、意見・要望に答え、運営に活かしている。今後も変わらぬ尽力に期待したい。

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service outcomes and staff performance.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「その人の人格を尊重し、その人らしさを支える」という基本理念と「一人一人の生活を大切に、穏やかで楽しい暮らしを提供します」というケア理念を掲げ、実践に繋がられるように毎朝申し送り後に唱和している。	法人の基本理念とケア理念を目につく場所に掲示し、日常的に共有している。主に申し送りの場で唱和し、理念への理解を深めており、日々その実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	町内会に所属し、毎年行事に参加させて頂いていたが、コロナ禍にて中止となり交流の機会は少なかったが回覧板を渡したり散歩の際に声を掛けて頂いたりと近隣の方々と交流している。	通例では町内会、地域活動に積極的に参加している。自粛傾向の中、地域との交流、回覧板での事業所の近況の周知等、関係維持について、職員間で協議している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方に認知症について相談されたり認知症のご家族様をお持ちの方に相談やアドバイスなどをし情報を共有したりしている。地域の方にもGHを十分に理解して頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍のため万が一の感染のことを考え、中止になることもあったが、感染数が減少した時は、感染対策を徹底したうえで開催し参加者の方々と意見交換し、そこでの意見をサービスの向上に活かしている。	現在は書面開催となっているが、通例では管理者を中心に家族、地域代表、行政で構成され、定例で開催している。運営状況や利用者の動向、現状の問題点まで論議され、参会者から意見を聞き取り、運営に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の保健福祉部指導監査課や包括支援センターへ書類などの提出時に相談などをし、良い関係を築けるよう努めている。	市、地域包括支援センターから情報提供や指導を受けている。定例の運営状況報告や、地域高齢者や事業所の状況について、情報交換を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束検討委員会を開いており、職員で現在の入居者様の様子について十分に話し合い身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束検討委員会を設置し、指針を基に定例で開催している。委員会では、現状の検証を行い、職員間で共有している。不適切なケアと思われる事は、相互に注意し合えるよう職場環境にも配慮しながら、拘束をしない介護に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングや会議の際に話し合いをし、ケアの状況や対応の仕方、不安や疑問点などを話し合い、職員間で共有し防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前、成年後見制度を利用された入居者様がおり、職員も研修に参加し知識を高め、今後必要な時は、いつでも利用出来るようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は十分に余裕のある時間で行い、サービス内容などを詳しく説明し、不安や疑問点を確認し、十分に理解を得られるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様とは、信頼関係の構築に努め、来訪時や電話などで些細な事でも相談して頂けるように努めている。玄関に意見箱や年に一回アンケートを実施し運営に反映させている。	写真を添えたお便りや電話で、利用者の日常の様子を伝えている。事業所のサービスや職員の介護姿勢等について定期的にアンケートを実施しており、意見・要望は運営推進会議の場で公表しながら、運営に活かしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段より意見や提案を言えるような雰囲気作りにより職員は日常や会議などで意見、提案を述べ、管理者が部長へ、部長より運営者へ伝えて頂き運営に反映させている。	申し送りや月例の会議の場で、職員との意見交換や提案を受け、運営に活かしている。また、個別の相談には管理者が随時対応する等、雇用形態も含め、働きやすい環境作りに配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営者は職員の離職などで利用者が受けるダメージを認識し、極力職員の希望の労働時間や希望を取り入れるよう努力している。職員が揃えば有給休暇を消化出来るようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者、管理者は職員の段階に応じ、積極的に研修等の受講や国家試験のための応援に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍にて、密を避けるために交流は少なかったが、勉強会や研修などで意見交換やアドバイスを頂き交流する機会を設け、サービスの向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談時に管理者が訪問して事前にご本人様と話し合い困っていることや不安なこと要望をお聞きし、解消出来るように努め、安心して入居して頂けるよう関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談時に同席してもらい、遠方の方はお電話で不安なことや要望をお聞きし、不安が解消されるよう努め、ご家族様とよく話し合う機会を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、ご家族様と話し合い、利用されていたサービス機関や医療機関から情報を収集し必要としている支援を見極め検討し、最適なサービスが利用出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の出来ることを大切にし、生活の中で活かしていけるようにし、一緒に談笑や係わりの時間を大事に、共に楽しく生活し家族のような存在になれるよう良い関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしなが、共に本人を支えていく関係を築いている	電話や来訪時などに、ご本人の様子や状況をお伝えしたり、ご家族様に声を掛けて頂き安心していただけるように職員と連携しながらご本人を支えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍にて積極的に外出出来ない状態だが、外出出来るようになったら馴染みの場所への外出や馴染みの方との交流を支援していきたい。	通例では、馴染みの場所や希望する場所への訪問は、職員同行や家族の協力を得て、想いに添える様、支援している。コロナ禍において、現在は電話連絡の頻度を上げることで関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係性を把握し、良い関係が作れるよう配慮している。また、職員が間に入り話題を提供し関係づくりに努めたり、トラブル発生時は、仲裁に入りお互いが不快な思いを残さないよに対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された入居者様の施設や病院へ面談に行ったり電話相談などで話し合ったりと出来る限りのフォローを行い関係を継続あいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日頃の係わりの中で利用者一人一人の希望や表情や動作から思いをくみ取り把握に努め、ご家族様の意見も参考にし、出来るだけ本人本位になるように検討している。	会話や表情から思いや希望を把握し、職員間で検討している。家族からも情報を得て、入居時の基本情報に加え、定期的にアセスメントを行い、情報共有している。	本人から最後の時間をどこで過ごしたいのか等の最終段階に関して、具体的な思いを聞き取り・記録し、より本人本位の介護となるように期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、ご家族様やサービス機関から生活歴やライフストーリー等を聞き取りして、入居前の生活習慣を大切に、大きく変わらずに暮らしていけるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃より職員間で話し合い情報を共有し入居者様一人一人が出来る能力を伸ばすように働き掛けたり、出来ない所や補助が必要な所は援助し、現状の能力を把握するよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様の意見をお聞きし職員で話し合い、業務日誌には実施状況を記録しケアマネージャーとカンファレンスを行い介護計画を作成している。	職員相互で日々のモニタリング実施状況と個別記録を検証し、本人・家族の要望や医師・看護師の意見を考慮しながら、介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に日常の暮らしの様子や介護計画に係ること、気づき等を記入し、職員は送りや記録で情報を共有し実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様の都合上困難な場合、買い物や病院受診や外出など事業所が変わって対応したり、その時々生まれたニーズに対し職員で話し合い、柔軟なサービスが提供出来るよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍にて外出の機会が減り、屋外、地域中でのご本人の心身の力を発揮する場面が少なかった。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人の希望するかかりつけ医への受診支援の他、医療連携している主治医の往診があり24時間体制で緊急時や夜間も診てもらったり電話相談による支援も行っており、安心して適切な医療が受けられるようになっている。	本人、家族の要望を伺い、かかりつけ医とのつながりを大切に支援するよう努めている。また、医療機関との協力体制があり、受診内容については記録を基に、職員間で共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携している病院の看護師が隔週で訪問して、入居者様の健康チェックをして下さり、状態や体調を報告しアドバイスをもらったり相談に乗って頂き指示をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関へ入院の際は、必ず職員が付き添い、関係者へ情報提供や今後の方針などを医師に相談している。コロナ禍のため面会は出来ていないが、病院や電話にて関係者と今後の方向性を話し合い早期退院出来るよう関係づくりを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様へは、入居時に重度化、看取りに関する指針を説明し同意書を取っている。ホームで出来ることを説明、理解してもらい、状態の変化に応じて主治医、ご家族様と都度話し合い主治医とは24時間体制で連携を取り終末期支援に取り組んでいる。	契約時に事業所の方針を説明し、状態変化に応じて協力医療機関、家族と終末期を支えるための話し合いを行っている。職員は看取りケアについて定期的に学び、本人と家族の希望に寄り添うよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時には緊急時対応マニュアルがあり、全職員が周知している。AEDも設置しており、現在はコロナ禍で行われていないが、消防主催の普通救命講習を受講する予定。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、昼夜を想定し避難訓練を行っている。災害時には、町会の方が救助に来てもらえる体制も整い、道南GH協会Bブロック内でも災害時に協力しあえる体制が出来ている。	定例で火災・自然災害を想定した避難訓練を実施している。地域、他事業所との相互の協力体制や備蓄品の確認を行い、不意の災害に備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者のプライバシーに関する内容はイニシャルを使用し、排泄の報告は暗号を用いて職員に伝えている。トイレ前に暖簾を置くなど誇りを損ねない言葉掛けや対応をしている。	職員はプライバシーへの配慮、接遇や言葉使い、望ましいケアについて定期的に見直し、協議している。不適切と思われる対応については都度、相互に話し合い、改善に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	一人一人の能力に応じて常に複数の選択肢を用意したり選べるように支援し、自己決定出来るように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居前からの習慣を大切にし、テレビや昼寝、新聞を見たり趣味を行ったりと入居者様のペースで過ごして頂き、希望に添えるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居前の生活背景から、好みの服装や化粧をしたりとおしゃれや訪問美容師に好みのヘアースタイルにして頂けるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日その時にある食材や旬の食材を使って季節を味わってもらい楽しんで頂けるよう工夫している。簡単な調理や、配膳や後片付けなども一緒に行っている。	季節感、盛り付けに配慮し、彩りあるものとなっている。調理の過程や下膳、テーブル拭き等、好きなお手伝いをお願いしたり、出前で外食気分を味わう等、食事が楽しみある時間となるよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量は記録に残し、偏りや脱水に注意している。食材により入居様が食べやすいように刻んだり医師の指示をもらい経腸栄養剤を飲んで頂くなどし支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を理解し、毎食後口腔ケアを行い、口腔内の状態も観察している。舌ブラシなどの口腔ケア用品を使い、困難な方にはスポンジを使用するなどご本人の力に応じて介助し清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿、排便のチェックをしており、個々の排泄パターンに合わせて誘導したり、トイレサインを見逃さず誘導し、トイレで排泄出来るよう支援している。立位保持が困難な方は、職員2名で介助しトイレで排泄してもらっている。	個々のタイミングを時間で把握し、声掛けを工夫しながらトイレへの誘導を行っている。排泄時の羞恥心に配慮しながら、出来るだけ自力で行えるよう見守り、支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が日常生活に及ぼす影響を理解し、乳製品、食物繊維を多く含む食材の提供や体操などで適度な運動を行っている。必要に応じて下剤を調整し使用するなどし便秘予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は午後だが、様々な入浴剤を使用し心地よく入浴して頂いている。足浴や汚染時には随時シャワー浴を行うなど個々にそった支援をしている。	時間帯の制限はあるが、出来る限り利用者の希望に沿えるようにしている。拒否のある場合も、利用者の心情に寄り添い、声掛けに工夫しながら、心地よく入浴出来るよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、昼寝やソファで休まれたり、体調を見て声を掛けて休んでもらっている。夜間、寝付けない方には温かい飲み物を提供したり、季節により扇風機や加湿器を使用し体調を崩さないよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報をいつでも確認出来るよう各個人記録に添えつけており種類や副作用など把握出来るようになっている。内服確認表を用いて準備から内服まで複数人で確認し指示通り内服出来るよう支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭きや洗濯たみなど個々の状態に合わせて役割を持って頂いている。毎日新聞を読まれたり趣味のパズルなど行い楽しんで頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ過のため、外出や外食の機会は少なかったが、花見や紅葉など四季のドライブやホーム前の墓園を散策し、地域の方の犬の散歩や子供たちの遊ぶ姿などを見て楽しんで頂けるよう支援している。	花見等の外出行事は中止しているが、気候の良い時期は周辺の散策をしている。室内でのレクに運動を取り入れ、気分転換や心身の機能維持に努めており、コロナ禍での制限が最小限となるよう努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ過のため外出出来ずお金を使う機会がないが、財布や少額をご自分で持って頂きいつでも使うことが出来るよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自分で掛けられない方は、職員が変わって電話をし、ご本人とお話出来るよう支援している。誕生日の時にはご家族様よりバースデイカードが届いている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	民家改修型のホームで昔ながらの家の雰囲気を大事にし、居間や廊下などに飾り付けや塗り絵を飾り季節を感じて頂けるよう心掛けている。今の窓からは、中庭を眺めることができ日当たりも良く、心地よく過ごせるようになっている。	リビングでは、食卓やソファで利用者それぞれが寛いで過ごせる空間作りをしており、温・湿度管理や換気、音や光に配慮している。利用者と共に作成した貼り絵を掲示する等、温かみある雰囲気作りをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓やソファで、気の合う方でお話されたり自室にてテレビや片づけ、のんびりと外を眺めたりと思い思いに過ごされている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前より使用されていたタンスや思い出の写真などを飾り、ご家族様にも協力して頂き、ご本人が心地よく過ごせるよう工夫している。	居室には昔馴染みの家具や小物類が置かれ、安心して過ごせるような工夫が見られる。また写真や絵なども飾られ、自分の居場所として落ち着いた雰囲気となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレに表札。立ち上がりや歩行が安全に出来るよう、廊下、トイレ、浴室に手すりが設置されている。廊下にベンチを用意し疲れた時に休んで頂いている。		